

学校だより

はせやまの風

舞鶴市立新舞鶴小学校

平成30年4月27日発行

白糸中学校区小中一貫教育目標

夢に向かって 未来を切り拓く 児童生徒の育成

URL <http://www.shinmaizuru.maizuru.ed.jp>



やる気を引き出す魔法は？

どこまでも青く青く晴れ渡る皐月の空に、長谷山の若葉がまぶしく映る好季節を迎えています。入学、進級からひと月経ち、子どもたちは、それぞれに新しい先生や友達、教室に慣れてきたところです。22日の参観日でも、先生の目を見ながら話を真剣に聞く姿やどの子も教科書を持って音読する姿が見られ、落ち着いて学習に向かう雰囲気ができつつあることをうれしく思います。そして、休み時間の校庭からは、遊具遊びや鬼ごっこ、ドッジボールなどに興じる歓声が聞こえてきます。

高学年は、休み時間になると委員会の仕事に忙し動き回りながら、充実した表情を見せています。先日の全校集会で児童会本部役員が披露した、取組提案に係る寸劇や集会委員の挨拶、一年生を迎える会での各学年の出し物などから、児童会としても、順調な滑り出しをしていることがうかがえます。

3月までは、登校班の後ろにいて、小さな声で挨拶をしていた人が、4月に6年生になり、班長として後ろの1年生の歩みを気にしつつ、時にはすっかり後ろ向きになって班のみんなを見守りながら登校してくるようになりました。別の6年生は、校門に近づくと、1年生にこう言い聞かせていました。「いいか。大きな声で挨拶するんだよ。小さい声ではちっとも聞こえないよ。」この班は、1年生に限らず、みんなはつきりと「おはようございます」と言います。今では、それが当たり前になっています。

彼らは、誰かに言われてそうしたのでしょか。いいえ。きっと自らの考えで行動を起こしたのだと思います。では、何が、彼らのやる気を引き出したのか。それは、「最高学年になったという自覚」でしょう。よく役が人を育てると言います。彼らも、まさしくそうなのです。きっと3月までの自分から、成長の階段を一段上ったのだと思います。それは、多くの子どもに言えることです。5年生になり、初めての委員会の仕事に打ち込む姿。去年までだったら、「休み時間がつぶれていやだな」と思ったことでしょう。でも、そんな素振りには微塵も見えません。

このやる気を大事にしたいものです。やる気を出した姿を、すかさず褒めることも大切です。

5月19日には、舞鶴市小学生陸上競技大会が開催される予定で、5、6年生が100名以上エントリーしています。短い練習期間ですが、放課後の時間を有効に使い、自己記録の更新目指して黙々と練習に打ち込む姿に、思わず「がんばれ！」と声をかけたくなります。そんな中、今まで運動が苦手な、陸上大会に出るなんて考えもしなかった人が、友達に刺激を受け、参加を決意し、練習で記録を伸ばしている、という話を聞きました。彼女の「やる気」を引き出した魔法は、友達の存在です。

子どもたちは、どの子も限りない可能性を秘めています。私達は、「やいなさい」、と言ってやらせるのではなく、子どもが思わずやりたくなるような、仕掛けをする存在であらねばならないと思います。なぜなら、やる気になった子どもは確実に伸びるからです。「子どもの心に火をつける教師でありたい」と願い、研鑽を積み重ね、と子どもたちの姿から「やる気」をもらっています。



校長 立山 美都子

